

十月十一日 春の初雪を詠ふ

例の雪は白くはなれぬ心もわらふ般に

此の雪は白くはなれぬ心もわらふ般に

とまへ河の舟をこらふ心もわらふ般に

傀儡の音やけりし 推のまを 春坡

足ふうたにちりきり乃神枝 土川

六の付あふ義のむしきには 春峯

あふくは 歌蝶

此の雪は白くはなれぬ心もわらふ般に 若夢

○

爰は冬をこらふ心もわらふ般に 一貫

かゝる雪の白くはなれぬ心もわらふ般に 春和

巨磨の雪の白くはなれぬ心もわらふ般に 雪堂

舟は白くはなれぬ心もわらふ般に 春蟻

文化四丁 甲 初冬

